

第115回 『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

今回から、数回、私が影響を受けた記事の紹介をすることにします。

先日面白い記事を紹介していただきました。それは、ニュースの記事で、社会活動家・東京大学特任教授である湯浅誠さんの配慮ある多様性（）というものです。これはとても大切なことだと思ったので、それについて紹介します。

湯浅さんは、時代的課題としての「配慮＝インクルージョン」をテーマにして書いています。それは、オリンピックイヤーの課題というよりも、それを超えて2020年代を通した課題として。令和2年の課題というよりも、令和の時代的課題として考えています。インクルージョンという言葉は、訳としては配慮とは直接関係ないのですが、敢えて「配慮＝インクルージョン」としてあることには意味があります。

そして、ある高校生の言葉から、インクルージョン（）を説明しています。その高校生の言葉とは、「歩くのがちょっとゆっくりな人とは、自分もゆっくり歩かないですか。そういうことだと思うんです」と。歩くのがゆっくりな人と一緒に歩くために、ちょっとゆっくり歩くこと。それが「インクルージョン＝配慮」だと湯浅さんは主張しているのです。

そして、多様性はすばらしいが、それは危ういものだと言っています。多様性という言葉は、「他人にやさしく」という個人の道徳を超えて、社会の課題になっているというのです。外国の人や障害のある人の社会参加が進むと、様々な人が生活する社会になるので、多様性ということは、社会課題となってくることは想像することができますが、湯浅さんは、それは多様性の評価に関わると言っているのです。

そして、昨年月の臨時国会・所信表明演説で、「みんなちがって、みんないい」と安倍総理が金子みすずの詩を引用したことにふれ、多様性礼賛の象徴のようなこの言葉を安倍総理が引用したことに触れています。そのとき安倍総理は、次のように言っています。

「みんなちがって、みんないい」新しい時代の日本に求められるのは、多様性であります。みんなが横並び、画一的な社会システムの在り方を、根本から見直していく必要があります。多様性を認め合い、全ての人とその個性を活かすことができる。そうした社会を創ることで、少子高齢化という大きな壁も、必ずや克服できるはずです。

（第回衆議院本会議・安倍首相所信表明演説）

出典 国立国会図書館リサーチナビ 施政方針・所信表明演説一覧

そして、湯浅さんは、令和の始めに、総理大臣の重要演説でこの詩が引用されたことを、感慨深く受け止めています。なぜならば、湯浅さん自身が、多様性を認め合う社会の実現を望み、歓迎しているからです。しかし、一方で、「安易な多様性礼賛は危うい」とも述べているのです。

面白くなってきたのですが、続きは次回にします。

～坂井聡先生の紹介～

((プロフィール))

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授。1997年には自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。2013年より教授に就任。